

ProgrammingDay ~5領域とのつながりを明確化した支援内容~

【項目】	【ねらい】
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康状態の維持・改善 ✓ 生活のリズムや生活習慣の形成 ✓ 基本的な生活スキルの獲得
【具体的な支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康状態の把握 利用開始時に1人ずつの顔を見て挨拶を行い、顔色や健康状態を観察し、体調把握を行う。 本人に声掛けを行うことで自らの体調への意識づけを行い、健康な心と体を育み、健康な生活を送れるよう支援する。 ● 健康の増進 個別活動の中で、休憩やトイレ休憩などを促し、基本的なリズムが身に付けられるよう支援する。 ● リハビリテーションの実施 活動の開始と終了時には職員とあいさつを行い、それを習慣化することで社会的な訓練を行う。 ● 基本的な生活スキルの獲得 活動の中で、使ったものは元の位置にもどすなど整理整頓を身に付けられるよう声掛けを行う。 パソコンを利用した創作物については個別のフォルダに保存するなどの知識・技能を獲得できるように訓練する ● 構造化等により生活環境を整える その日の活動内容を書き出して説明をすることで「見える化」し、見通しを持って学習できるように支援する。 障害の特性に配慮し、時計やタイマー・掲示物等を利用することで、時間や状況を本人に分かりやすいよう構造化する。 	

【項目】	【ねらい】
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 姿勢と運動・動作の向上 ✓ 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ✓ 保有する感覚の総合的な活用
【具体的な支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● 姿勢と運動・動作の基本的技術の向上 パソコン療育の中で、机と椅子を用いた正しい姿勢をお伝えし、保持できるよう意識づけを行う。 ● 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持が難しい場合は、足置きを活用して足裏を安定させることで上肢の保持を支援する。 ● 保有する感覚の活用 タイピング等の練習により体性感覚を養う。 高次脳機能トレーニングソフトなどのPCプログラムを通して、保有する感覚を十分に発揮できるよう支援する。 ● 感覚の補助及び代行手段の活用 「ITを福祉用具に」をモットーに、パソコンやアプリなどの機能を活用できるよう支援する。 例) 読み上げ機能、タイピングによる板書の代行、時間の感覚を視覚でとらえられるようアプリタイマーの使用等 ● 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 本人の特性に合わせ、PC利用における音量や明るさ調整、マウスの感知設定などを行うことで環境を調整する。 	

【項目】	【ねらい】
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知の発達と行動の習得 ✓ 空間・時間、数等の概念形成の習得 ✓ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得
【具体的な支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● 感覚や認知の活用 特性に応じ、視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分活用して必要な情報を収集できるよう、ICT媒体を使い色・音・文字・イラスト・動き等を用いて認知機能の発達を促す支援を行う。 ● 知覚から行動への認知過程の発達 プログラミング療育に取り組むことで論理的思考を育み、必要な情報の取得から行動となる一連の認知過程の発達を支援する。 ● 認知や行動の手がかりとなる概念の形成 活動内容の掲示や、グラフィックを使った説明、または3D技術を用いたプログラムに取り組むことで、ものの機能や変化・空間や時間などの概念の形成、それらを基に行動へと活用できるよう支援する。 ● 数量、大証、色等の習得 様々な脳機能を用いたタスク、知育ゲームに取り組むことで支援を行う。 ● 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、職員との個別の会話や声掛けによって情報の取得を促し、適切に処理ができるよう支援する。 ● 行動障害への予防及び対応 パソコンを用いたカリキュラムと、職員との関わり合いにより、認知の偏り・コミュニケーションの困難性の予防と適切な行動への対応の支援を行う。 	

ProgrammingDay ~5領域とのつながりを明確化した支援内容~

【項目】	【ねらい】
言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 言語の形成と活用 ✓ 言語の受容及び表出 ✓ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ✓ コミュニケーション手段の選択と活用
【具体的な支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● 言語の形成と活用 活動の初めに、その日の流れや取り組みについてを担当職員と共に確認する時間を設ける。 これにより具体的な体験と言葉の意味を結びつけ、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 ● 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個別療育の場面において、パソコンなどの画面における共同注意の獲得を含め、職員とのかかわり合いを持ち、コミュニケーション能力向上のための支援を行う。 ● 指差し、身振り、サイン等の活用 必要に応じて指差し、身振り、サイン等を用いた意思のやり取り・相互理解ができるよう、YES/NO表やアプリなどを用意し活用する。 ● コミュニケーション機器（手段）の活用 子どもニーズカード（絵・言葉のカード）、パソコンのチャット機能、読み上げ機能などを用意し、特性に合わせてコミュニケーション手段を選択・活用することで環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。 	

【項目】	【ねらい】
人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他者との関り（人間関係）の形成 ✓ 自己の理解と行動の調整 ✓ 仲間づくりと集団への参加
【具体的な支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● アタッチメント（愛着行動）の形成 活動の中で、話を聞かれる・聞く・一緒に取り組むなどの関りを通して、人との関係を意識し、身近な人との親密な関係・信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 ● 模倣行動の支援 あいさつや言葉づかい、声の大きさ、身体接触などのかかわり方について、まずは職員が意識して行動し、声掛けを行うことで社会性や対人関係の芽生えを支援する。 ● 自己の理解とコントロールのための支援 職員は利用児童の特性を理解し、支援計画に沿った支援と必要な関りや声掛けを行い、自分にできること・できないことなどの行動の特徴の自己理解とともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 ● 集団への参加への支援 自由時間に複数人での活動となる場合において、その手順やルールを職員と共に作ることで理解を促し、集団活動に参加できるよう支援する。 	